

広報たのみ診療所

朝日診療所
所長

わかやま たかし
若山 隆



どうも！所長の若山です。今回は新型コロナウイルスの予防接種（以下コロナワクチン）についてのお話です。日本でも医療従事者へのコロナワクチン接種が始まっています。これから高齢者の接種がいずれ始まります。

日本で始まっているコロナワクチンはコミナティという名前のワクチンです。このワクチンはこれまでにない新しい仕組みのワクチンです。ワクチンの有効性はこれまでの知見で90%以上とされ、非常に高い予防効果をもっています（ちなみにインフルエンザワクチンの有効性がだいたい50-60%程度）。この90%というのは、100人にワクチンをうったら90人に効果があるということではありません。例えば10,000人がいたとして、全員がワクチンをうたなかったら100人がコロナウイルス感染症を発症していたとして、全員がワクチンをうければ10人だけがコロナウイルス感染症を発症するということです（100人→10人にへって90%減少）。新しい仕組みのワクチンであるため、副反応（副作用）を心配される方もいると思います。しかしこちらも、全世界で多人数（数千万人）に接種されておま

すが、通常のワクチンにみられる接種部位の痛み・腫れ、発熱、倦怠感といったものや、アレルギー反応（重症も含まれますが、臨床試験では全員治療され後遺症もない）が確認されていますが、このワクチンだけにみられる重大な副反応はいまのところ報告されていません。新しいワクチンですので、これから分かってくる副反応もないとはいえませんが、それは極めて低い確率のものであります。

コロナワクチンを打つ場合に注意する必要がある方は、過去になんらかのワクチンもしくは薬剤でアナフィラキシー反応（命に関わるアレルギー反応）を起こしたことがある方です。そのような方は個別に医師に相談していただく必要があります。その他、妊婦さん・授乳婦の方も胎児への未知の影響の恐れがあります。そうでない16歳以上の方は接種可能です。特に高齢の方、基礎疾患のある方にはおすすめてです。

一人でも多くの方がコロナウイルスで辛い思いをせずにすむように、コロナワクチンの接種をお勧めいたします。

地域おこし協力隊として vol.75

移住定住支援協力隊
いまぜき まき
今関 真貴



「豪雪と空き家」

浅雪だった昨年とは一変、今年は「これが本当の只見だぞー！」と日々お声がけいただいています。また、どこも同じような状況にも関わらず「手に負えなくなったら声かける」の一言はとても心にしみました。同時に、健康でなければ雪掘りもままならないと実感。心身ともに健やかで、余裕と余力を持つことの大切さが身にしみた2度目の冬でした。

さて、わたしの今年度の仕事のひとつは空き家に関する記事を町の広報に連載することで、記事づくりにともない空き家について調べ考える1年でした。掲載記事は、皆さんが空き家について興味を持つきっかけとなり、且つわかり易い内容となるように努めましたがいかがでしたでしょうか。連載を終え、只見町の空き家に対して感じたことを次にまとめます。

空き家対策は大きく「活用」か「解体」の2択です。特別豪雪地帯である只見町では建物を定期的にメンテナンスして状態を保つことが必要不可欠ですが、これは空き家の活用を希望する場合も同様です。なお、活用を希望しない場合も、空き家をそのままにしておけば雪害による建物倒壊や道路への落雪などにより周囲に被害を及ぼすことにもなりかねません。

家によって、かかわる人の思いも、取り巻く環境も千差万別ではありますが、今後、多くの人々が向き合うことになる空き家問題。まずは自分ごととして捉え、少しずつ知識を増やして考えを整理し、周囲の方とも話し合いの場を持ちながら、余裕をもって取り組むことが大切なのではないかと思っています。